

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人地域サポートわかさ		
所在地	沖縄県那覇市	設立年	2007年
運営主体	特定非営利活動法人地域サポートわかさ		
事業目標	<p>美術部のない2つの中学校を対象に、公立公民館を拠点とした「アートな部活動(美術部)」創設に向けて、課題や成果を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者不在のため設立できなかった「美術部(アートな部活動)」の創設 ・定期的な活動による居場所としての機能を発揮 ・社会教育の特性を活かした部活動とアート活動をミックスしたプログラムの開発 ・部活動と地域活動の連携・協働の場や機会の創出 		
きっかけ	<p>那覇市の北西地域にある中学校2校(那覇市立那覇中学校、那覇市立上山中学校)は、文化系部活動が少なく、美術に関する部活動はない。入部希望者がいても担当できる教員(顧問)がいないことを理由に立ち上げが見送られている状況があった。</p> <p>運営団体である地域サポートわかさは、若狭児童館及び若狭公民館の指定管理者として取り組む中で、地域コミュニティの希薄化と青少年を取り巻く環境の変化を感じており、生徒が主体的に取り組む多様な体験活動の場と地域と学校の連携強化、協働活動の充実を求めている。また、教員の負担軽減という社会課題に対し、これまでアーティストと協働で地域特性に応じた社会教育プログラムを開発してきた経験を活かしたいと考えた。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	那覇市若狭公民館を拠点に、那覇文化芸術劇場なは一と、壺屋焼物博物館、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立芸術大学、周辺地域などで活動		

<p>活動概要</p>	<p>那覇市若狭公民館を活動拠点に、2つの中学生を対象とした「アートな部活動(美術部)」を創設。生徒の自主性・主体性を育むことを基本とし、現代的な表現に取り組むアーティストを顧問あるいはゲストに迎え、芸術分野・領域を超えた創造的なアート体験に取り組んだ。</p> <p>「アートな部活動」は、次の3つのプログラムで複層的に構成され、様々なアート体験ができるように配慮した。</p> <p>①生徒自身が目標を定め年間を通して取り組む創作課題(自主制作)の「つくる部」 ②現代アーティストの潮流やアートの歴史に学び、実際に作品を鑑賞したり作品を鑑賞する上で求められる批評眼を養う「観る部」 ③現代アーティストによるアーティストトークやワークショップを体験し、その活動や経験に触れる「オルタナティ部」</p> <p>実施回数・プログラム</p> <p>●毎週火水木実施(全102回)</p> <p>①「つくる部」(83回) ②「観る部」講師:土屋誠一(美術批評家・沖縄県立芸術大学准教授)(6回) ③「オルタナティ部」(全13回)</p> <p>・「ユーチュー部」(2回)顧問:藤井光(現代美術家・映像作家) ・「ダンボール部」(4回)顧問:儀間朝龍(現代美術家・イラストレーター) ・「ポストポスト部」(4回)顧問:平良亜弥(現代美術家・パフォーマー)</p> <p>そのほか、講師・ゲスト</p> <p>・照屋勇賢(現代美術家) ・阪田清子(現代美術家・沖縄県立芸術大学准教授) ・山城知佳子(現代美術家・東京藝術大学准教授)</p> <p>●地域行事等に積極的に関わることで、教育的効果を高めるとともに、取り組みの周知にも繋がった。</p> <p>・若狭児童館「お化け屋敷」、若狭地域文化祭、若狭公民館まつり等</p>
--------------------	---

○本事業による成果

- ・美術部創設のニーズを把握していながらも、教員の業務過多及び指導者の不在等の理由で実現できずにいた2つの中学校の生徒を対象とした「アートな部活動(美術部)」を立ち上げ、取り組むことができた。
- ・各学校の美術室で実施した「出張!アートな部活動」により、生徒及び教科担任以外の教員への周知につながり、学校との連携体制を強化することができた。
- ・部員は、同じ興味関心を持つ仲間として、学校を超えた交流が生まれた。
- ・不登校や保健室登校の生徒も参加し、居場所として機能した。
- ・国内外で活躍するアーティストの多様な表現と制作に向かう真摯な姿勢に触れることで、視野を広げ、制作意欲を高めることができた。
- ・多世代交流や地域行事等への参画の機会により、キャリア教育としての成果も得られることができた。

- ・アンケート結果を見ると、全部員が「楽しかった」と回答し、次年度以降の継続を求めている。
- ・約9割の生徒が「新しい発見があった」としており、アートに対する認識が変わったことが示されている。
- ・保護者アンケートでは、全ての回答者から、子どもの様子を「楽しそう」、次年度以降「継続を希望する」と回答している。
- ・美術教科担任へのヒアリングでは、「多忙でこれ以上業務負担を増やすことはできないため、地域で部活動を担っていただけるのはありがたい」とコメントをいただいた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・学校では消極的な生徒や不登校の生徒でも、それぞれが自分らしく楽しく安心して活動できるような雰囲気づくりに努めている。
- ・生徒の自主性と主体性を尊重し、それぞれの興味関心、制作ペースに応じて指導するように留意している。
- ・発達障害や情緒が不安定で気になる言動を行う生徒に対しては、学校と情報共有し、共通認識のもと対応するように心がけた。
- ・地域行事で活動する機会や発表する場を設けることで、地域社会の成員としての意識の醸成に努めた。
- ・「ユーチュー部」では、在留外国人を含めた多様な大人を交えたプログラムとすることで、多文化共生社会について考える契機とした。
- ・芸術の専門教育を受け、教員免許取得や指導の経験がある運営団体職員(4人)が連携し、生徒の取り組みをサポートした。
- ・活動が単調にならないように、また、視野を広げ制作意欲が高まるように、国内外で活躍するアーティストを講師として招き、活動に触れる機会を提供している。
- ・公立文化施設や芸術大学への見学を取り入れ、視野を広げると同時に創作意欲を高めるように努めた。

○運営上の工夫

- ・児童館、公民館の指定管理者を務める運営団体の特性とネットワークを活かし、対象中学校をはじめ、教育委員会、SSWなどの支援員と連携、情報交換できる体制を構築した。
- ・那覇文化芸術劇場なは一と文化専門員や沖縄アーツカウンシルPO、学習支援コーディネーターなどの専門家の協力を得て、この取り組みの意義を確認すると同時に、活動の方向性について助言をいただいた。
- ・活動場所の若狭公民館研修室の利用料を免除した。
- ・部員及び保護者との連絡には公式LINEを活用した。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・学校をはじめ関係機関との連携体制が構築でき、技術指導だけではなく居場所としての役割も担うことができる。
- ・基本活動については、児童館及び公民館事業の一部として位置付けることで継続可能となるが、国際的に活躍するアーティストを招聘してのプログラムについては、別途資金確保が必要となる。
- ・那覇文化劇場なは一と(那覇市文化振興課)、沖縄アーツカウンシル、那覇市文化協会等の専門機関とのネットワークが構築できたことにより、部活動に専門家を招聘しなくても各団体が実施するプログラムに参加することで低予算で体験、指導できる可能性が広がった。
- ・部活動の会場とした若狭公民館は利用料金の減免措置があるため、活動を継続しやすい環境にある。
- ・経費全てを会費で賄うことになると高額になるため理解を得るのは難しい。児童館や公民館の事業予算や別途補助金等外部資金を確保することで部員(保護者)の負担軽減を検討する。
- ・会費については、安価な適正額を設定できたとしても、支払いが困難となる家庭があることも想定できる。全ての中学生が参加しやすいように子どもの居場所事業等との連携によって消耗品費等の捻出も検討したい。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・令和5年度は、若狭公民館の取り組みとして位置づけて「アートな部活動」を実施する。
- ・担当職員を2人体制にし、事業進捗や生徒の見守り、安全管理体制を整える。
- ・基本的な活動は、生徒自身が目標を定め、自主的に取り組むように促す。
- ・教科担任をはじめ校長や教員と情報共有する場を設け、指導の方向性や教育的意義(配慮)を共有して取り組んでいく。その際、教員が負担を感じないよう配慮し、部活動の内容については運営団体が主導して企画・運営・指導を行う。
- ・学校との連携を強化し、公民館研修室だけではなく2つの中学校の美術室も活用し、地域行事、学校行事と連動した取り組みを行えるようにする。
- ・公立文化施設等の展示企画やワークショップに出向き、多様な体験が得られるようにする。
- ・那覇市の「公共施設等管理団体等が実施する子どもの居場所運営事業」と連携することで、消耗品費等活動にかかる経費を捻出する。
- ・今年度実施した「ユーチュー部」のように遠隔地から講師を招くプログラムは、オンラインを活用して実施できるように検討する。
- ・那覇市子ども会育成連絡協議会の子ども会安全保険に加入することで、事故等が発生した際に対応できるように安全面に配慮する。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	14名(上山中4名・那覇中10名)
	学校名	上山中学校・那覇中学校
	募集方法	部員募集チラシを作成し、上山中学校・那覇中学校の全生徒に学校を通じて配布。また、両中学校の美術室にて「出張アートな部活動」を実施し、体験を通じて取り組み内容を周知した。
指導者	人数等	11人(運営団体職員4人・外部の専門家・アーティスト7人)
	募集方法	年間のプログラム内容を検討した上、連携・協力関係のある外部の専門家・アーティストに依頼
参加者の移動手段		通常の活動は徒歩。公共文化施設等で実施する場合は、公共交通機関を利用するか運営団体スタッフによる送迎
活動費用	指導者謝金等	指導者・コーディネーター 謝金 1,050円/時間 謝金(外部指導者)謝金 5,100円/時間、交通費 1,100円
	その他	材料・消耗品費 360,050円 会場使用料(若狭公民館) 無料
活動財源	会費	なし
	その他	運営団体自主財源
スケジュール	基本活動	毎週火・水・木 16:00～18:00
	年間	4月 学校・アーティスト等調整、部員募集 6月 上山中・那覇中にて「出張！アートな部活動」 7月 若狭児童館「お化け屋敷」会場づくり企画 7月～12月 月1回「観る部」実施 8月以降 随時「オルタナティブ部」実施 11月 若狭地域文化祭「ダンボール商店」で参加 2月 若狭公民館まつりにて成果発表展示
保険加入等		子ども会安全保険(那覇市子ども会育成連絡協議会) 400円×14名 レクリエーション保険 2,000円

【活動の様子（写真添付）】

①「つくる部」の様子



上山中学校・那覇中学校で実施した「出張アートな部活動」



②「観る部」の様子



③「オルタナティ部」の様子

・「ユーチューブ部」 講師：藤井光



・「ダンボール部」 講師:儀間朝龍



・「ポストポスト部」 講師:平良亜弥



・「オルタナティブ」 その他のゲスト講師



照屋勇賢@文化芸術劇場なは一と



山城知佳子@若狭公民館



阪田清子@沖縄県立芸術大学